

かがやき

創設50周年



公益財団法人栃木県体育協会
栃木県スポーツ少年団

50 周年を迎えて



栃木県スポーツ少年団本部長

青木 英典

栃木県スポーツ少年団創設 50 周年記念にあたり、今日までの発展にご尽力頂きました多くの関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、記念記録の作成に際しましてひとことごあいさつを申し上げます。

日本スポーツ少年団が創設された 2 年後の「東京オリンピック大会」開催の記念すべき年に、本県スポーツ少年団は歩みを始めました。その歩みの躍進は、スポーツのビッグイベントである昭和 55 年の「栃の葉国体」や平成 5 年の「高校総体」にスポーツ少年団から巣立った多くの選手が活躍されるなど、歴史的にも大きな力のある一歩を歩んでおります。また、平成 34 年に開催が予定されております本県開催の国体において、現在団員として活動している選手の活躍が大いに期待されるところでございます。

本県スポーツ少年団は、現在 24 市町の加盟登録により 19,656 名の団員・指導者を有するようになりました。子どもたちの生き生きとした活動を促すため、県・市町単位で各種競技別交流大会や交歓会、ジュニア・リーダースクールなどの交流活動を積極的に推し進めております。また、平成 20 年には「スポーツにはじける笑顔 子どもの未来」のスローガンを新たに掲げ、より子どもの健全な成長を促す団体としての役割を果たしてきているところでございます。

過去 50 年のうち主に直近 20 年の活動を記録したこの記念記録で、各市町村のスポーツ少年団の特色や活動の様子がわかりますが、この記念記録発行を期に今後に向けて更なる飛躍を期待しております。

更なる発展に向け、課題も山積しているところではございますが、スポーツを通じて青少年を育成する道標となるべく一步一步あゆんで行きたいと思っておりますので皆様方の一層の御指導と御協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、本記録編纂に関係された各位と貴重な資料を提供して下さいました多くの方々に心から感謝を申し上げます。

平成 26 年 12 月

歴代本部役員・指導者協議会役員一覧表

年度	本部長	副本部長	指導者協議会長	副会長
昭和39	星 功	藤田 三郎・鈴木 重毅		
昭和40	星 功	藤田 三郎・鈴木 重毅		
昭和41	星 功	藤田 三郎・鈴木 重毅		
昭和42	星 功	石川 一正・塚田 武男		
昭和43	星 功	石川 一正・塚田 武男		
昭和44	星 功	石川 一正・塚田 武男		
昭和45	星 功	石川 一正・塚田 武男・塚田 実		
昭和46	星 功	石川 一正・塚田 実		
昭和47	星 功	堀内 肖吉・五月女 兵吾・塚田 実		
昭和48	星 功	堀内 肖吉・五月女 兵吾・塚田 実		
昭和49	星 功	堀内 肖吉・草島 尚介・塚田 実		
昭和50	星 功	堀内 肖吉・草島 尚介・塚田 実		
昭和51	星 功	和氣 芳雄・伊藤 守・河上 久王		
昭和52	星 功	和氣 芳雄・伊藤 守・河上 久王		
昭和53	星 功	細井 操・植竹 幸重・岡本 四郎	石川 福一	蘇原 博・小堀 功
昭和54	星 功	細井 操・植竹 幸重・岡本 四郎	石川 福一	蘇原 博・小堀 功
昭和55	星 功	細井 操・高杉 保夫	石川 福一	石原 紀一・荒井 守雄
昭和56	星 功	堀内 肖吉・高杉 保夫	石川 福一	石原 紀一・荒井 守雄
昭和57	増山 陽章	堀内 肖吉・高杉 保夫	石原 紀一	石原 紀一・瀬尾 欣右
昭和58	高杉 保夫	石原 紀一・増山 陽章	石原 紀一	小田 一博・瀬尾 欣右
昭和59	高杉 保夫	石原 紀一・増山 陽章	瀬尾 欣右	小田 一博・茂田 孝雄
昭和60	高杉 保夫	石原 紀一・増山 陽章	瀬尾 欣右	小田 一博・茂田 孝雄
昭和61	増山 陽章	石原 紀一・加藤 櫨	瀬尾 欣右	小田 一博・茂田 孝雄
昭和62	増山 陽章	石原 紀一・加藤 櫨	瀬尾 欣右	熊倉 敬次・柳沢 功
昭和63	増山 陽章	石原 紀一・加藤 櫨・大貫 昭市	瀬尾 欣右	熊倉 敬次・柳沢 功
平成元	増山 陽章	石原 紀一・加藤 櫨・大貫 昭市	瀬尾 欣右	熊倉 敬次・柳沢 功
平成2	増山 陽章	石原 紀一・加藤 櫨・中塩 好昭	瀬尾 欣右	熊倉 敬次・岸 収
平成3	増山 陽章	石原 紀一・加藤 櫨・中塩 好昭	瀬尾 欣右	熊倉 敬次・岸 収
平成4	増山 陽章	石原 紀一・椎名 寛・大塚 敏男	瀬尾 欣右	熊倉 敬次・岸 収
平成5	増山 陽章	石原 紀一・椎名 寛・大塚 敏男	瀬尾 欣右	熊倉 敬次・岸 収

平成6	増山 陽章	石原 紀一・椎名 寛・枼也 勝彦・瀬尾 欣右	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介
平成7	増山 陽章	石原 紀一・椎名 寛・枼也 勝彦・瀬尾 欣右	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介
平成8	増山 陽章	石原 紀一・椎名 寛・瀬尾 欣右・山野井 暉	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介
平成9	増山 陽章	石原 紀一・椎名 寛・瀬尾 欣右・山野井 暉	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介
平成10	山野井 暉	石原 紀一・椎名 寛・瀬尾 欣右・荻原 庸男	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介
平成11	山野井 暉	椎名 寛・瀬尾 欣右・大森 俊雄	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介
平成12	山野井 暉	椎名 寛・瀬尾 欣右・大森 俊雄	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介
平成13	山野井 暉	椎名 寛・瀬尾 欣右・立入 輝夫	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介
平成14	山野井 暉	熊倉 敬次・瀬尾 欣右・吉田 忠征	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介・稲富 照子
平成15	山野井 暉	熊倉 敬次・瀬尾 欣右・諏佐 収	熊倉 敬次	飯田 昌弘・小川 俊介・稲富 照子
平成16	山野井 暉	中山 文雄・瀬尾 欣右・諏佐 収	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成17	山野井 暉	中山 文雄・瀬尾 欣右・落合 保	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成18	青木 英典	中山 文雄・瀬尾 欣右・落合 保	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成19	青木 英典	中山 文雄・瀬尾 欣右・奥澤 康夫	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成20	青木 英典	中山 文雄・瀬尾 欣右・星野 務	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成21	青木 英典	中山 文雄・瀬尾 欣右・坪山 正克	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成22	青木 英典	中山 文雄・吉成 伸一・森島 幸男	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成23	青木 英典	中山 文雄・吉成 伸一・中村 伸	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成24	青木 英典	中山 文雄・吉成 伸一・大豆生田 聡	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成25	青木 英典	中山 文雄・吉成 伸一・増渕 正典	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子
平成26	青木 英典	荒川 洋・吉成 伸一・増渕 正典	小川 俊介	飯田 昌弘・上吉原 浩・稲富 照子

栃木県スポーツ少年団の年表

昭和 38 年	栃木県スポーツ少年団発足		
昭和 39 年	栃木県スポーツ少年団創設	昭和 50 年	日本スポーツ少年団緊急 3 ヶ年計画提案
昭和 45 年	団数 667 団、団員 21,302 人		第 2 回日独同時交流
	日本スポーツ少年団第 3 次 3 ヶ年計画		酒井邦光氏指導者として参加
	①組織の拡大強化	8 月	第 6 回関東ブロックスポーツ少年大会
	②指導者リーダーの養成、強化		8 都県参加
	③単位団活動の強化		(今市青少年スポーツセンター)
	④スポーツ施設の拡充整備	昭和 51 年	日本スポーツ少年団緊急 3 ヶ年計画開始
昭和 46 年 3 月	中央リーダースクール (日本学生会館)		日本スポーツ少年団指導者協議会の発足
	参加者 宮川 進氏	52 年	第 5 次育成 5 ヶ年計画策定
	塚原 秀子氏		育成実験地区 小山市
5 月	中央指導者研修会 (岸記念体育館)	昭和 53 年 11 月	都道府県指導者講習会 C コース
	参加者 國井 克夫氏		(今市青少年スポーツセンター)
6 月	都道府県スポーツ少年団指導者研修会	昭和 54 年 1 月	第 1 回全国スポーツ少年団剣道交流大会
	内容「単位団の充実を図るには」		(国立オリンピック記念青少年総合セン
	(塩原町「かもしか荘」)		ター)
12 月	都道府県ブロック指導者研修会		本県不参加
	(塩原町「もみじ荘」)	3 月	第 1 回全国スポーツ少年団卓球交流大会
	団数 1,598 団、団員 59,676 人		(国立オリンピック記念青少年総合セン
昭和 48 年	日本スポーツ少年団第 4 次 5 ヶ年計画		ター)
	①育成母集団の結成		栃木県チーム 第 3 位
	②団活動の活性化	8～11 月	地域交流促進事業 河内町実施
	③組織の整備と確立		サッカー、ミニバスケットボール
	日独同時交流の決定	昭和 56 年 2 月	関東ブロック指導者研究協議会開催
5 月	中央指導者研修会 (水元青年の家)		(宇都宮市)
	参加者 栗橋 一氏、大塚 弘氏	3 月	第 3 回全国スポーツ少年団剣道交流大会
	酒井 邦光氏		(国立オリンピック記念青少年総合セン
7 月	中央リーダースクール		ター)
	参加者 守 善之氏、吉成 明子氏		栃木県チーム 敢闘賞
	団数 2,299 団、団員 82,991 人	8 月	第 3 回全国スポーツ少年団軟式野球交流
昭和 49 年	活動プログラム実験地区指定		大会 (愛知青少年公園)
	関東地区 小川町		横川東 (宇都宮市) 優勝
7～8 月	第 1 回日独同時交流	11 月	第 1 回関東ブロックスポーツ少年団競技
	参加者 手塚 聡氏		別交流大会 (バレーボール)
	石島 芳則氏		(今市青少年スポーツセンター)
	飯塚 隆之氏	昭和 57 年 7～8 月	第 9 回日独同時交流
	福田 悦子氏		参加者 熊倉 順子氏
	団数 1,540 団、団員 90,681 人		松浦 芳男氏

古口 秀喜氏

8 月	第 4 回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 (愛知青少年公園) 宇都宮市中央 準優勝	第 8 回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 (東京都) 落合東小 (男子) 第 4 位 小百小 (女子) 第 3 位
	日本スポーツ少年団創設 20 周年表彰 受賞団 犬塚 (小山市) 若獅子 (田沼町) 受賞者 林 久興氏、高杉 保夫氏 岸 収氏、本木 義隆氏 國井 克夫氏 八木沢 章介氏	昭和 62 年 7～8 月 第 14 回日独同時交流 参加者 磯野 亜紀子氏
昭和 58 年 3 月	第 5 回全国スポーツ少年団剣道交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 敢闘賞	昭和 63 年 7～8 月 第 10 回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 (東京都) 小百小 (女子) 第 4 位
8 月	第 5 回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 (滋賀県) 今市男子 第 3 位 第 14 回関東ブロックスポーツ大会 (今市青少年スポーツセンター)	8 月 第 10 回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 (愛知青少年公園) 若獅子 (田沼町) 第 3 位 第 7 回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会開催 (宇都宮市内) モデル少年団育成事業 (佐野市)
9 月	日独青少年指導者セミナー 参加者 熊倉敬次氏	平成元年 2 月 関東ブロックスポーツ少年団会議 (ニューみくら)
昭和 59 年 3 月	第 6 回全国スポーツ少年団剣道交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 準優勝	3 月 第 11 回全国スポーツ少年団卓球交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 優勝
7～8 月	第 22 回全国スポーツ少年団大会開催 (今市青少年スポーツセンター)	第 11 回全国スポーツ少年団剣道交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 敢闘賞
昭和 60 年 3 月	第 7 回全国スポーツ少年団剣道交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 優勝 第 7 回全国スポーツ少年団卓球交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 準優勝 モデル少年団育成事業指定 (矢板市)	8 月 第 11 回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 (愛知青少年公園) 国本西 (宇都宮市) 第 3 位
昭和 61 年 3 月	第 8 回全国スポーツ少年団卓球交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 第 3 位	平成 2 年 3 月 第 12 回全国スポーツ少年団卓球交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 準優勝
		平成 3 年 3 月 第 13 回全国スポーツ少年団卓球交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 敢闘賞
		8 月 第 22 回関東ブロックスポーツ少年大会 (那須青年の家) 8 都県 114 名参加

平成 4 年 3 月	第 14 回全国スポーツ少年団卓球交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 敢闘賞	平成 19 年 8 月	関東ブロックスポーツ少年大会開催 (今市青少年スポーツセンター)
	第 14 回全国スポーツ少年団剣道交流大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 栃木県チーム 敢闘賞	平成 20 年 7 月	第 27 回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会開催 (宇都宮市) スローガン決定 「スポーツに はじける笑顔 子どもの未来」
	モデル少年団育成事業 鹿沼市、小山市、馬頭町、河内町	平成 22 年 11 月	関東ブロックリーダー研究大会開催 (今市青少年スポーツセンター)
7～8 月	バルセロナオリンピックユースキャンプ 参加者 菊池 正哉氏	平成 23 年	認定員再研修の義務化を本格実施
平成 5 年 2 月	関東ブロック会議 (鬼怒川ホテル清流荘)	平成 24 年 3 月	第 35 回全国スポーツ少年団剣道交流大会 (小瀬スポーツ公園武道館) 個人戦 多賀谷 歩氏 優勝
3 月	第 15 回全国スポーツ少年団卓球交流大会 (静岡県焼津市総合体育館) 栃木県チーム 優勝		第 9 回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会 (鶴岡市小真木原総合体育館) サンダース 第 3 位
平成 5 年 8 月	第 11 回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 (宇都宮市) 8 都県 473 名参加	平成 26 年 3 月	第 11 回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会 (和歌山ビッグホエール) 横川東 VBC 優勝
平成 6 年 3 月	第 16 回全国スポーツ少年団剣道交流大会 (山梨県) 個人戦 一本杉 美輝氏 優勝		
	第 16 回全国スポーツ少年団卓球交流大会 (札幌市中島体育センター) 団体戦 河内町 第 3 位 個人戦 大柿 文彦氏 敢闘賞		
平成 7 年	栃木県スポーツ少年団創設 30 周年		
平成 11 年 8 月	第 30 回関東ブロックスポーツ少年大会 (今市青少年スポーツセンター)		
平成 12 年 7 月	第 19 回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 (栃木県)		
平成 17 年 8 月	第 27 回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会開催 (宇都宮市) 清原中央 準優勝 南摩 第 3 位		
平成 18 年	認定員再研修の義務化を実施決定		
11 月	関東ブロックスポーツ少年団指導者研究協議会開催 (ポートホテル)		

日本スポーツ少年団顕彰受賞一覧(1)

年度 表彰	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年度	平成8年度	平成9年度
個 人	椎名 寛 〔小山市〕	高崎 長一 〔宇都宮市〕	柳沢 正男 〔田沼町〕	後藤 一雄 〔宇都宮市〕	大野 ミチ 〔鹿沼市〕	青木 敏一 〔鹿沼市〕	箱田 順正 〔鹿沼市〕	飯田 昌弘 〔佐野市〕	手塚 章雄 〔宇都宮市〕	山口 和男 〔石橋町〕
	石原 紀一 〔鹿沼市〕	中山 文雄 〔佐野市〕	中荃 正平 〔小山市〕	熊倉 敬次 〔鹿沼市〕	大谷津 章 〔矢板市〕	印南 源一 〔矢板市〕	熊久保 克彦 〔黒磯市〕	竹内 久夫 〔上三川町〕	神山 丞一 〔日光市〕	金子 孝昭 〔鹿沼市〕
	瀬尾 欣右 〔矢板市〕	高橋 平蔵 〔小川町〕	金子 和男 〔宇都宮市〕	戸叶 豊 〔田沼町〕	戸田 譲一 〔石橋町〕	渡辺 祺浩 〔河内町〕	丸山 守 〔河内町〕	田代 豊 〔小川町〕	伏木 秀一 〔矢板市〕	稲村 宗一 〔大田原市〕
団 体	小川町 スポーツ少年団	小山市 スポーツ少年団	佐野市 スポーツ少年団	鹿沼市 スポーツ少年団	矢板市 スポーツ少年団	宇都宮市 スポーツ少年団	河内町 スポーツ少年団	馬頭町 スポーツ少年団	田沼町 スポーツ少年団	今市市 スポーツ少年団
感 謝 状	高杉 保夫 〔小川町〕	篠原 茂雄 〔小山市〕	國井 克夫 〔宇都宮市〕	加藤 槐 〔高根沢町〕	該当なし	該当なし	大谷津 章 〔矢板市〕	高橋 平蔵 〔小川町〕	該当なし	福田 泰造 〔今市市〕
	林 久興 〔佐野市〕		山口 宣男 〔鹿沼市〕							

日本スポーツ少年団顕彰受賞一覧 (2)

年度 表彰	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
個 人	竹内 清 〔河内町〕	木村 滋 〔矢板市〕	加藤 恕仁 〔佐野市〕	山崎 正信 〔鹿沼市〕	初谷 久雄 〔佐野市〕	神長 幸司 〔鹿沼市〕	飯野 勉 〔佐野市〕
	矢野 省一 〔鹿沼市〕	時 敏夫 〔河内町〕	黒川 真幸 〔鹿沼市〕	大平 光男 〔鹿沼市〕	渡辺 浩志 〔鹿沼市〕	枝村 重利 〔鹿沼市〕	長峰 信明 〔鹿沼市〕
	阿部 利夫 〔鹿沼市〕	広田 泰介 〔鹿沼市〕	内田 裕次 〔矢板市〕	小林 好一 〔佐野市〕	八木沢信夫 〔矢板市〕	阿久津武司 〔矢板市〕	阿部 尚 〔鹿沼市〕
団 体	日光市 スポーツ少年団	石橋町 スポーツ少年団	該当なし	該当なし	該当なし	黒磯市 スポーツ少年団	該当なし
感 謝 状	増山 陽章 〔宇都宮市〕	石原 紀一 〔鹿沼市〕	竹内 久夫 〔上三川町〕	該当なし	該当なし	後藤 一雄 〔宇都宮市〕	熊倉敬次 〔鹿沼市〕
						伏木 秀一 〔矢板市〕	

日本スポーツ少年団顕彰受賞一覧 (3)

年度 表彰	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
個 人	高橋 一 〔宇都宮市〕	篠崎 章 〔矢板市〕	恒松 龍拳 〔宇都宮市〕	入江仁四郎 〔宇都宮市〕	篠崎 馨 〔宇都宮市〕	野澤 敏男 〔鹿沼市〕	鈴木 悦子 〔宇都宮市〕	宮原 幸洋 〔宇都宮市〕	赤羽 右次 〔宇都宮市〕	増渕 順子 〔宇都宮市〕
	稲富 照子 〔鹿沼市〕	刀根 謙治 〔鹿沼市〕	吉原 徳 〔日光市〕	根岸 敬 〔鹿沼市〕	東 英俊 〔鹿沼市〕	渡辺 正 〔鹿沼市〕	野口 友克 〔宇都宮市〕	岡本 武夫 〔宇都宮市〕	小林 史雄 〔宇都宮市〕	佐藤 邦昭 〔那須塩原市〕
	鹿妻 孝夫 〔鹿沼市〕	佐藤 悦夫 〔鹿沼市〕	吉村 誠 〔鹿沼市〕	和氣 進 〔矢板市〕	田口 茂樹 〔下野市〕	高橋 芳生 〔矢板市〕	渡邊 友彦 〔鹿沼市〕	渡邊 敏 〔鹿沼市〕	島田 哲英 〔鹿沼市〕	石原 利之 〔佐野市〕
			阿部 繁雄 〔佐野市〕		阿部 信雄 〔大平町〕	黒須 清 〔那須烏山市〕	柳澤 幸志郎 〔佐野市〕	菊地 正典 〔那須塩原市〕	香取 誠 〔鹿沼市〕	長田 幸子 〔日光市〕
							大山 茂 〔下野市〕	菊池 洋介 〔那珂川町〕	増山 正一 〔那珂川町〕	
団 体	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	下野市 スポーツ少年団	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
感 謝 状		高橋 一 〔宇都宮市〕	該当なし	該当なし	吉田 一 〔宇都宮市〕	青木 敏一 〔鹿沼市〕	該当なし	該当なし	大野 ミチ 〔鹿沼市〕	該当なし
		山野井 暉 〔栃木県〕								

栃木県スポーツ少年団顕彰事業受賞一覧(1)

[illegible]

栃木県スポーツ少年団顕彰事業受賞一覧 (2)

年度表彰		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指導者の部	表彰者	阿部 繁雄 (佐野市)	恒松 龍拳 (宇都宮市)	吉田 一 (宇都宮市)	和氣 進 (矢板市)	野口 友克 (宇都宮市)	宮原 幸洋 (宇都宮市)	岡本 武夫 (宇都宮市)	赤羽 右次 (小川宮市)	増渕 順子 (宇都宮市)
		刀根 謙治 (鹿沼市)	手塚 俊美 (日光市)	篠崎 馨 (宇都宮市)	根岸 敏 (鹿沼市)	東 英俊 (鹿沼市)	野澤 敏男 (鹿沼市)	渡邊 友彦 (鹿沼市)	小林 史雄 (宇都宮市)	田仲 精一 (宇都宮市)
		曾雌 次男 (小山市)	篠崎 章 (矢板市)	渡辺 孝 (日光市)	吉原 洋 (日光市)	長田 幸子 (日光市)	高橋 芳生 (矢板市)	渡邊 敏 (鹿沼市)	島田 哲英 (鹿沼市)	奥澤 静司 (佐野市)
		斉藤 和憲 (茂木町)	佐藤 悦夫 (鹿沼市)	吉村 誠 (鹿沼市)	佐藤 邦昭 (那須塩原市)	猪瀬 岩夫 (矢板市)	高橋 雅士 (佐野市)	石原 利之 (佐野市)	長谷川 紀代司 (佐野市)	関澤 芳雄 (鹿沼市)
		増山 正一 (馬頭町)	黒須 清 (南那須町)	篠崎 功三 (佐野市)	鈴木 悦子 (宇都宮市)	福富 善明 (藤岡町)	西村 雅永 (下野市)	大山 茂 (下野市)	星野 寿男 (益子町)	岡野 守 (那須塩原市)
単位の部の団体	表彰	佐野中央道場剣道 (佐野市)	真徳武道館 (今市市)	宇都宮東ミニバスケットボール (宇都宮市)	粕尾バレーボールクラブ (鹿沼市)	城東パドミントン (宇都宮市)	宝木ファイターズ (宇都宮市)	石井バレーボールクラブ (宇都宮市)	富士見剣道クラブ (宇都宮市)	柔道修練田村堂 (宇都宮市)
		学童野球旗川 (佐野市)	眞和館 (宇都宮市)	宝木柔道クラブ (宇都宮市)	あわの (鹿沼市)	鹿沼剣友 (鹿沼市)	五代ミニバスケットボール男子 (宇都宮市)	真武館空手道 (宇都宮市)	雀宮南F C (宇都宮市)	OSI城山卓球クラブJr (宇都宮市)
		鹿沼市剣道 (鹿沼市)	やなぜサッカー (宇都宮市)	清原中央 (宇都宮市)	サンダース (宇都宮市)	学童野球出流原クラブ (佐野市)	矢板東クラブ (矢板市)	学童野球佐野クラブ (佐野市)	宇大附属小バドミントン (宇都宮市)	桜学童 (宇都宮市)
		北押原 (鹿沼市)	上戸祭バドミントン (宇都宮市)	上河内中央クラブ (上河内町)	宇都宮東空手道 (宇都宮市)	学童野球葛生南クラブ (佐野市)	植野クラブ (佐野市)	吉水クラブ (佐野市)	軟式野球飛駒クラブ (佐野市)	益子ジュニアバドミントンクラブ (益子町)
		奈坪クラブ (河内町)	鹿沼北光 (鹿沼市)	佐野ソフトテニス (佐野市)	凌雲館緑剣道場 (宇都宮市)		佐野サッカー (佐野市)	石橋ジュニアバドミントン (下野市)	界剣士会 (佐野市)	益子古館 (益子町)
		馬頭町柔道 (馬頭町)	鹿沼市空手道 (鹿沼市)	佐野中央バレーボール (佐野市)	氷室バレーボールクラブ (佐野市)		石橋バレーボールクラブ (下野市)		益子西クラブ(野球) (益子町)	
			若獅子クラブ (佐野市)	鹿沼市菊西 (鹿沼市)			吉田西クラブ (下野市)			
			田沼中央剣道 (佐野市)	菊沢東部 (鹿沼市)			南河内サッカー (下野市)			
母集団の部の団体	表彰	佐野クラブ (佐野市)	桜学童 (宇都宮市)	姿川中央ミニバスケットボール (宇都宮市)	鹿沼市空手道 (鹿沼市)	青木武道館 (宇都宮市)	雀宮南ミニバスケットボール (宇都宮市)	キリン今泉剣友会 (宇都宮市)	篠井ミニバスケットボール (宇都宮市)	富士見ジャイアンツ (宇都宮市)
		佐野犬伏剣道 (佐野市)	城山西卓球 (宇都宮市)	雀宮体育協会空手道 (宇都宮市)	秀武館 (鹿沼市)	リトルスターズ (宇都宮市)	五代 (宇都宮市)	今泉バドミントン (宇都宮市)	姿川第二学童バレーボール (宇都宮市)	かわち空手道 (宇都宮市)
		久我 (鹿沼市)	柔道修練田村堂 (宇都宮市)	陽光バレーボール (宇都宮市)	御幸小 (宇都宮市)	宮の原学童 (宇都宮市)	拳武会細谷空手道 (宇都宮市)	やなせ柔道 (宇都宮市)	矢板市剣道 (矢板市)	清原中央剣道 (宇都宮市)
		鹿沼東光 (鹿沼市)	千渡 (鹿沼市)	葛生南バレーボールクラブ (佐野市)	御幸剣道クラブ (宇都宮市)	粕尾バレーボールクラブ (鹿沼市)	鹿沼剣友 (鹿沼市)	進修館 (佐野市)	天明クラブ (佐野市)	犬伏学童野球 (佐野市)
			鹿沼みなみ (鹿沼市)	葛生クラブ (佐野市)	常盤学童クラブ (佐野市)	あわの (鹿沼市)	城北クラブ (佐野市)			矢板市柔道 (矢板市)
				みどりが丘 (鹿沼市)		赤坂ジュニア (佐野市)	犬伏東クラブ (佐野市)			
				鹿沼市剣道 (鹿沼市)		葛生バレーボール (佐野市)				
功労者の部	表彰者					今泉正義 (小山市)				

栃木県スポーツ少年団顕彰事業受賞一覧 (3)

年度 表彰		平成25年度	平成26年度
指導者の部	表彰者	諏訪 昭太郎 (宇都宮市)	田代 和夫 (宇都宮市)
		鈴木 孝治 (宇都宮市)	鈴木 明美 (鹿沼市)
		高橋 猛 (佐野市)	菅井 勇 (那須塩原市)
		大島 嘉之 (矢板市)	稲葉 省博 (栃本市)
		粒来 紀男 (那須塩原市)	石田 誠司 (那珂川町)
単位の部の団	表彰団	横川ミニバスケットボール (宇都宮市)	陽南剣道 (宇都宮市)
		陽光バレーボールクラブ (宇都宮市)	富士見サッカー (宇都宮市)
		上戸祭空手道 (宇都宮市)	みはら (宇都宮市)
		益子柔道会 (益子町)	朋龍館空手道 (鹿沼市)
		清洲 (鹿沼市)	光柔館 (栃本市)
		進修館 (佐野市)	柳橋フットベースボール (栃本市)
			三好クラブ (佐野市)
母集団の部	表彰団	清原ロケッツ (宇都宮市)	恵光館 (宇都宮市)
		明保バレーボール (宇都宮市)	宇都宮 J B (宇都宮市)
		拳武会戸祭支部空手道 (宇都宮市)	田沼中央剣道 (佐野市)
		佐野中央クラブ (佐野市)	矢板東クラブ (矢板市)
		矢板市空手道 (矢板市)	
功労者	表彰者		篠田 博 (佐野市)

栃木県スポーツ少年団創設50周年記念事業 功労者名簿

No	ふりがな 氏 名	No	ふりがな 氏 名	No	ふりがな 氏 名
1	おのざき こういち	17	やなせ ゆたか	33	たかざわ しげお
	小野崎公一		築瀬 豊		高澤 茂夫
2	きむら しょうじ	18	おかもと あきお	34	あおき ひろゆき
	木村 昇二		岡本 明男		青木 博之
3	たなか いずみ	19	こばやし さだお	35	おおつか ひろあき
	田中 泉		小林 貞夫		大塚 浩明
4	いなば しげる	20	こもり さとし	36	ひらいし かずほ
	稲葉 茂		小森 智		平石 和帆
5	たかはし ふくお	21	やまぐち しんじ	37	かとう としゆき
	高橋 福雄		山口 新二		加藤 俊行
6	みねむら よしお	22	つなかわ はるひこ	38	たかはし たけし
	峰村 義雄		綱川 治彦		高橋 猛
7	いざわ あきお	23	いいだ まさひろ	39	やなぎさわ こうしろう
	伊沢 昭男		飯田 昌弘		柳澤 香志郎
8	とき としお	24	なかやま ふみお	40	いいの つとむ
	時 敏夫		中山 文雄		飯野 勉
9	うかじ みつお	25	はつがい ひさお	41	いなとみ てるこ
	宇梶 三男		初谷 久雄		稲富 照子
10	こいけ まもる	26	しみず たけじ	42	さとう こうし
	小池 守		清水 武治		佐藤 公子
11	はまさき みのる	27	やまぐち としひで	43	わたなべ さとし
	濱崎 實		山口 利英		渡邊 敏
12	いしかわ たかお	28	こばやし こういち	44	おおぬき ふみお
	石川 崇夫		小林 好一		大貫 文夫
13	おぐら いちろう	29	いでい えいいち	45	つるの たみ
	小倉 一郎		出居 栄一		鶴野 多美
14	おおぬき しげお	30	しのだ ひろし	46	うさみ しげる
	大貫 重雄		篠田 博		宇佐美 茂
15	ながほり おさむ	31	いしはら としゆき	47	かわまた よういち
	永堀 修		石原 利之		川又 洋一
16	つくい りくお	32	のむら りゅういち	48	ふせ みのる
	津久井 陸雄		野村 隆一		布施 実

栃木県スポーツ少年団創設50周年記念事業 功労者名簿

No	ふりがな 氏 名	No	ふりがな 氏 名	No	ふりがな 氏 名
49	ほんだ とらお 本田 登良男	65	きくち まさちか 菊地 正哉	81	おそざわ じゅんいち 遅沢 淳一
50	わたなべ ともひこ 渡邊 友彦	66	きくち まさすけ 菊地 正典	82	いわさき のりかず 岩崎 統一
51	こばやし かずお 小林 一央	67	おかの まもる 岡野 守	83	ふくだ けんぞう 福田 健三
52	あらかわ ひろみ 荒川 洋	68	つぶらい のりお 粒来 紀男	84	しのざき あきら 篠崎 章
53	いなば よしひろ 稲葉 省博	69	よこつか ひでお 横塚 英雄	85	わき すすむ 和氣 進
54	わたなべ としお 渡辺 利雄	70	おおしま たけし 大島 武	86	おおしま よしゆき 大島 嘉之
55	わき よしあき 和氣 芳明	71	はんだ ひさお 半田 久男	87	きむら しげる 木村 滋
56	なかむら たかお 中村 孝男	72	たかく つとむ 高久 務	88	あくつ たけし 阿久津 武司
57	いしもり まさひろ 石森 正広	73	さとう くにあき 佐藤 邦昭		
58	あべ のぶお 阿部 信雄	74	すがい いさむ 菅井 勇		
59	つかだ げきち 塚田 源吉	75	ましこ てるお 益子 輝雄		
60	たかはし としかず 高橋 敏和	76	きみしま けんじ 君島 建二		
61	まつなが くにお 松永 邦雄	77	やまぐち あけみ 山口 明美		
62	かめだ ぜんじ 亀田 善二	78	うかじ せいじ 宇梶 誠司		
63	おちあい さかえ 落合 栄	79	いそ たかお 磯 孝雄		
64	まつざか まさひこ 松坂 政彦	80	うすい よしひろ 臼井 義博		

宇都宮市スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和39年9月

(3) 役員数：18名

(2) 本部長名：坂本 宏夫

(4) 単位団数：261団

『宇都宮市スポーツ少年団のあゆみ』

昭和39年4月に21団が結成されたことに始まり、9月に「宇都宮スポーツ少年部」が市体育協会の専門委員会として設置され、昭和42年6月に「宇都宮市スポーツ少年団」に改名し、現在に至っている。

当初は団員の中心は中学生が占め、中学校を支部団、その他を地域団と分類していたが、現在は小学生が大部分となっている。

種目は年を追うごとに増え続け、現在は軟式野球やミニバスケットボールなど7種目において、毎年交流大会を開催しており、競技の歓びを通して相互の交流を深め、仲間意識と連帯感を高めることに努めている。

また、リーダー養成事業として、スポーツ少年団OBの青少年団員が中心となって、現役の団員を対象とした野外活動研修（3泊4日）の指導等を通して、リーダーを養成することにより、地域社会の中核となる健全な青少年の育成に取り組んでいる。

その一方で、少子化の進行や子どものスポーツ離れなどにより、団員数は減少の一途を辿っており、それに伴い

指導員数も減り、単位団の廃団や統合が続いている。この傾向が長く続くことになれば、スポーツ少年団そのものの存亡の危機であり、スポーツ界にとって大きな問題といえる。

今後、これらの課題解決に向け、関係機関との連携や情報交換を密にするとともに、新たな取り組みを模索しているところである。



【ジュニアリーダー研修会風景】

鹿沼市スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：昭和46年10月
(3) 役員数：47名

- (2) 本部長名：高橋 臣一
(4) 単位団数：28団

『鹿沼市スポーツ少年団のあゆみ』

鹿沼市では、昭和42年に市体育協会専門部により、剣道と柔道二つのスポーツ少年団が結成され、その後、野外活動を中心に活動する北押原スポーツ少年団が誕生しました。翌昭和43年にはサイクルスポーツ少年団が誕生しました。

昭和46年には、鹿沼市スポーツ少年団本部規約を制定し、鹿沼市スポーツ少年団が誕生、あゆみが始まりました。

結成当時は、中学生中心のスポーツ少年団であり、県本部の方針による、中学校の部活動即スポーツ少年団活動という他県では例をみない栃木方式と呼ばれる学校団方式のスポーツ少年団活動でした。組織も中学校区を単位とした9つの支部がありました。

その後、昭和54年度から中学生の部活動が学校教育活動内になったこと、県本部の方針が学校団方式から地域団方式に変更されたこと、関係者からスポーツ少年団本来の理念に基づいた方向に進むべきとの意見が出されたことにより、小学生を中心とした地域スポーツ少年団への移行を試みました。

スポーツ少年団関係者は、常にスポーツ少年団の理想像を求め、検討に検討を重ねた結果、鹿沼方式とも言われる小学校単位の複合スポーツ少年団をねらいとした組織化を図り、学校を

取り巻く地域に徐々に浸透し、多くの団員加入を得ることができました。

現在は、地域スポーツ少年団として単位団28団、団員登録者1563名、指導者941名が活発に活動しています。

平成2年には、鹿沼市リーダーズクラブが発足し、現在、48名のリーダーが活動しています。将来の地域のリーダー、スポーツ少年団のリーダー、指導者としての期待が大きいところであり、リーダーズクラブの育成に力を入れています。

平成13年には、10年間の活動を経て女性部会が正式に発足し、現在、各単位団から代表として選出された指導者17名と部長、副部長から構成され、活発な活動を展開しています。

本団では、楽しくスポーツに親しむことで心と身体の健康を育み、社会のルールがわかる子どもの育成を目指し、更なる一步を踏み出したいと考えています。

日光市スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和38年4月

(3) 役員数：20名

(2) 本部長名：前田 博

(4) 単位団数：63団

『日光市スポーツ少年団のあゆみ』

日光市スポーツ少年団は、旧今市市より通算して今年で51年、また合併してから9年目を迎えます。それぞれ特徴のある5市町村の合併により、スポーツ少年団の姿も大きく変化してきました。

日光市を代表する種目には、まずフィールドホッケーがあります。全国でも毎年上位の成績を収めており、特に今年は男女ともに全国大会で優勝しました。ここで経験を積んだ子どもたちの中には、中学・高校・社会人まで活躍する人も多く、そのサイクルによりフィールドホッケーに厚い層がうまれています。その他にも、日光市にはプロのアイスホッケーチームがあるので、プロの選手から直接指導を受けることができ、スケート競技が盛んにおこなわれています。また、スケートリンクが3箇所あり、施設環境が整っているのも当市の特徴といえると思います。

また、野球やサッカー、バレーボールなどの8種目14大会を市の主催事業としており、その他にも県大会への派遣事業や認定員養成講習会の独自開催など1年を通して多くの事業に携わっています。その中でも、姉妹都市である小田原市との交歓会は、1年ごとに会場を交換し、スポーツだけでなく両市の文化交流を体験することができるので、毎年多くの子供たちが参加し小学校最後の思い出を作っ

ています。

日光市は「世界遺産・日光の社寺」、「日光杉並木街道」、「足尾銅山施設」など多くの歴史的、文化的遺産を有しており、また「ラムサール条約登録湿地・奥日光の湿原」、「鬼怒沼湿原」などの豊かな自然に恵まれています。さらに鬼怒川・川治温泉をはじめ、市内各地域の温泉に国内外から多くのお客様に来ていただいている国際観光文化都市であることから、日光市の子どもたちは普段より多くの刺激を受けて育っています。そのため、普段と環境が異なる遠方での大会などでもいつも通りの力を発揮できるのだと思います。

今後もスポーツを通して仲間との絆を深め、活躍の場を広げていくことを願います。



(小田原交歓会 地曳網体験)



(ホッケー新人大会 2014)

真岡市スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和46年6月

(2) 本部長名：柳田 友広

(3) 役員数：6名

(4) 単位団数：26団

『真岡市スポーツ少年団のあゆみ』

真岡市スポーツ少年団は、市内小学校学区を母集団とする団の本部として発足し、当初は登録団、団員とも少ないものでしたが、少年団加入へのPR等により、昭和60年頃から増加し、平成2年には30団750団員となりましたが、児童数の減少とともに、加入団員も減り、平成21年、二宮町との合併により一時、団数、団員数が増加しましたが、平成25年度27団338団員、平成26年度26団340団員、と団数は、減少傾向、団員は340団員前後で推移しております。

団活動につきましては、県大会予選を兼ねた交流大会が主な活動となっておりますが、今後は、単一種目の活動だけではなく、他の種目との交流等を進めていきたいと考えております。また、真岡市は、「青少年が心豊かにたくましく育つ都市宣言」をしており、青少年の健やかな成長はスポーツ少年団の理念にもかなうものでありますので、より多くの児童、生徒が加入してもらうように努力していきたいと考えております。



栃木市スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和44年4月

(2) 本部長名：荒川 洋

(3) 役員数：12名

(4) 単位団数：34団

『栃木市スポーツ少年団のあゆみ』

栃木市スポーツ少年団は、昭和44年4月に創設され、平成22年3月に栃木市・大平町・藤岡町・都賀町1市3町の合併、更に平成23年10月に栃木市・西方町との合併、平成26年4月に栃木市・岩舟町との合併に伴い統合されました。現在、本部は荒川本部長以下、副本部長2名、会計1名、理事5名、会計1名、監事2名の役員と、76名の委員のもと組織され、事業の計画・実施・運営等を審議決定しています。競技種目は、バレーボール・卓球・フットベースボール・剣道・バスケットボール・野球・柔道・空手道の8種目、34団体で、指導者171名、団員532名が活動しております。

また、市スポーツ少年団登録者相互の連携と資質・指導力の向上並びに指導活動の促進・方策を協議するため、登録指導者で構成される指導者部会を組織し、選出された役員が運営にあたっております。

事業報告といたしましては、卓球で平成26年度第37回栃木県スポーツ少年団卓球交流大会におきまして、中学女子の部・小学5年の部・小学4年の部で優勝という輝かしい成績を残しました。また、フットベースボールは、スポーツを通じて地域活動を活性化するとともに、青少年の健全育成に努めております。毎週定期的に基本技術の習得に励み、競技力向上を図っております。また、他の団との交流や他市との交流を深め、団員、指導者のスポーツに対する教養・理解を高めてもおります。



一泊二日のリーダー研修 星野遺跡



栃木市スポーツ少年団フットベースボール大会開会式

小山市スポーツ少年団

- | | |
|---------------------|----------------|
| (1) 発足年月日：昭和46年4月1日 | (2) 本部長名：松本 幸一 |
| (3) 役員数：18名 | (4) 単位団数：67団 |

『小山市スポーツ少年団のあゆみ』

栃木県スポーツ少年団創立50周年おめでとうございます。

小山市スポーツ少年団は、単位団の育成と親睦を図り、生涯スポーツの理念を踏まえた諸活動を通じて、心身ともに健全な青少年を育成することを目的に、昭和40年に初代部長を迎え組織され、昭和46年4月1日に設立、同時に県及び日本スポーツ少年団に登録以降、県スポーツ少年団のご指導を得て事業を行ってきました。

設立当初、小山市内の小学校で団体・部活動をしている競技種目をすべて登録しようと、関係機関と連絡調整したと思うようにはいかず、設立や登録に大変な苦勞をした先輩の方々に深く感謝をしています。

現在では、単一団、複合型があり多種目競技においてスポーツを楽しんで活動しています。

小山市スポーツ少年団としての対外的な事業としては、過去に日独スポーツ少年団交流事業受け入れを2回、ドイツに2回派遣を行い交流を行い

ました。市スポーツ少年団では、8月に小学5・6年対象に第16回トライキャンプ、11月に運動適性テストとレクリエーションの第35回交歓会、2月に42.195kmをリレーで繋ぐ16回リレーマラソン大会、不定期でスキー教室等の事業を行っております。特にリレーマラソンは時間にとらわれず完走を目的に団員はもとより、指導者・育成母集団の方々と楽しく走り絆を深めております。また、競技別交流大会の市予選会を事業として活動しております。

今後、スポーツ少年団の目的達成に向け、登録団・団員数を拡張し充実した団運営に取り組んで行きたいと考えております。

最後に、栃木県スポーツ少年団の益々の発展とご活躍をご祈念いたします。

矢板市スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：昭和46年4月
(3) 役員数：21名

- (2) 本部長名：高橋 芳生
(4) 単位団数：4団

『矢板市スポーツ少年団のあゆみ』

設立から現在

矢板市スポーツ少年団は昭和46年4月に発足し、矢板市体育協会内に「矢板市スポーツ少年団本部」が設置された。すでに昭和39年から単位団として活動していた柔道スポーツ少年団に加え、昭和56年より剣道スポーツ少年団と空手道スポーツ少年団が加わった。さらに、昭和63年から矢板東クラブスポーツ少年団が加入し、現在に至っている。登録団員数はピーク時には約200名程度まで伸びたが、現在は約100名の登録となっている。

指導者においては、積極的に認定員・認定育成員の資格を取得し資質向上がなされている。また、日本スポーツ少年団顕彰事業も10名受賞している。

日独同時交流

平成11年7月に日独スポーツ少年団同時交流の受け入れを行った。受け入れ期間は5日間で12名のドイツ人スポーツ少年団員を受け入れた。受け入れ事業は市スポーツ少年団だ

けでなく、県スポーツ少年団の協力のもと、市を上げての一大事業となった。ホストファミリーには、指導者家族・母集団家族の協力を得て、友好と親睦を深めることができた。

主な事業・活動について

矢板市スポーツ少年団では、年間を通して多くの事業に取り組んできた。市内4団による宿泊交歓会、体力テスト、母集団研修会、指導者協議会勉強会の開催、市内清掃活動の実施、競技別交流大会への積極的参加等、現在も事業を継続開催している。

今後について

今後、上記事業・活動を通じて、多くの子どもたちにスポーツ少年団活動への興味や関心を持ってもらうことにより、矢板市スポーツ少年団がよりいっそう発展することを期待したい。



大田原市スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和54年4月

(3) 役員数：3名

(2) 本部長名：磯 元一郎

(4) 単位団数：28団

『大田原市スポーツ少年団のあゆみ』

・・・栃木県スポーツ少年団創設50周年おめでとうございます。大田原市内の児童・生徒がスポーツに励むことができるよう、交流大会の開催等をはじめとした、様々な事業や支援をしていただき感謝申し上げます。

大田原市スポーツ少年団は大田原市体育協会規約第7章の規定により、スポーツを通じて、青少年の心身を鍛錬するための、市内スポーツ少年団を育成することを目的として、昭和54年4月に設置されました。今年で活動を始めてから36年目を迎え、今年度の登録は28団、550名を越える団員数となりました。

大田原市スポーツ少年団が行っている主な活動としては、毎年5月のゴールデンウィーク期間にミニバスケットボール大会及びバレーボール大会を実施しており、たくさんの児童や保護者の方で大変にぎわう大会となっております。なおこの大会で優秀な成績をおさめたチームを県の交流大会へ市代表として派遣をしております。

また、スポーツ少年団指導者の育成を目的として、毎年2回スポーツ少年団の指導者講習会を開催し、指導者や保護者に対して「小学生への望ましいスポーツ指導の在り方」等のテーマで講話を行っております。

また各スポーツ少年団への補助と

いたしましては、育成に関する補助や保険加入の補助などを行い、各スポーツ少年団が活動を行いやすくするための環境づくりを行っております。

平成18年には大田原市スポーツ少年団日独同時交流事業を実施させていただきました。この事業で、大田原市スポーツ少年団ではドイツのスポーツ少年団員10名を受け入れ、テーマディスカッションやホームステイ等を行いました。

これからも青少年の心身を鍛錬する機会を設けるため、指導者や保護者の皆様と力を合わせ、努力してまいります。



佐野市スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和45年4月
(3) 役員数：55名

(2) 本部長：清水 武治
(4) 単位団数 38団

『佐野市スポーツ少年団のあゆみ』

スポーツ少年団理念を常に追求しつつ、佐野市の地域の特性を把握し活動を進めて来た。また、栃木県における登録第1号・2号の単位団が佐野市の団であり、先達的に活動してきた誇りを持ち今日に至っている。

〈単位団の活動〉

軟式野球、剣道、柔道、ソフトテニス、バレーボール、ミニバスケットボール、空手道、硬式野球を主たる活動種目とする38団がそれぞれの年間計画の中で、交流活動やレクリエーション活動などを取り入れながら、子ども達の心身ともに健全な成長に寄与している。市内各単位団の交流大会を経て県大会や関東・全国大会においても優秀な成績を収めた単位団も数多い。

〈奉仕活動〉

少年団活動と地域との連携強図るために、佐野市民をあげて開催されるさの秀郷まつりやくずう原人まつり会場清掃、市内運動施設周辺の清掃、さのマラソンコース周辺の清掃などを永年継続して実践して来た。平成24年度に開催された全国スポーツレクリエーション大会の中で催された「エコ活

動協賛事業」においてエコロジー賞を受賞した。

〈交流活動〉

日本スポーツ少年団の日独同時流事業の受け入れを過去2回行っていて、平成26年度3度目の受け入れを実施した。さらに過去団員3名をドイツに派遣している。また、佐野市スポーツ少年団の交流活動として、野外キャンプや体力テスト、ニュースポーツ交歓会などの後、餅つき会や豚汁サービスなどさまざまな交流活動を実践してきた。

〈リーダー会〉

ジュニアリーダー研修会の開催を通し、良きリーダーの育成を図り、イベント時の強力なスタッフとして、また、これからの団活動を継承する後継者の育成をめざし、異年齢間の有意義な交流の充実を図っている。先輩がシニアとなり後輩の指導も出来る体制が出来つつある。

総合型地域スポーツクラブと連携強化を図っている。市内4クラブのクラブマネージャーとして佐野市スポーツ少年団の役員が活躍し連携を推進している。

那須塩原市スポーツ少年団

(1) 発足年月日：平成17年4月

(3) 役員数：20名

(2) 本部長名：吉成 伸一

(4) 単位団数：56団

『那須塩原市スポーツ少年団のあゆみ』

平成17年1月1日、旧黒磯市・旧西那須野町・旧塩原町が合併して那須塩原市が誕生しました。

同年4月に那須塩原市体育協会に那須塩原市スポーツ少年団が設置されました。

設置当初は10種目40団、指導者250名、団員1,063名でスタートし、10年目を迎える平成26年度は13種目、56団、指導者365名、団員1,049名で構成されており、毎年、各種大会の予選会や県・全国大会に出場するなど活発に活動しています。

本市スポーツ少年団では、日本スポーツ少年団スポーツリーダー兼認定員養成講習会の独自開催や、救急救命士による救急法講習会、講師を招いての指導者講習会を開催し、指導者の育成を推進しています。また、団員を対象に初対面の団員同士で協力しながら課題に取り組み、リーダーとしての資質の向上を図ることを目的としたリーダー研修会を近県の青少年自然の家を利用して1泊2日で開催しています。研修後はそれぞれの団でリーダーシップを発揮し、活動がより活性化し充実したものとなるよう取り組んでいます。

平成27年度は日独交流事業の栃木県での受入市となります。初めての

受け入れとなりますが、本市の特性を生かしたスポーツ・文化交流を行い日独双方の団員にとって有意義な経験となるよう準備をすすめています。

今後もスポーツ少年団活動をとおり、青少年の心身の健全な発達と豊かな人間性を育んでいくために、那須塩原市スポーツ少年団の発展と充実を継続して取り組んでいくこととしています。



福島県会津自然の家で行ったリーダー研修会

さくら市スポーツ少年団

(1) 発足年月日：平成17年3月

(3) 役員数：4名

(2) 本部長名：野中 洋

(4) 単位団数：11団

『さくら市スポーツ少年団のあゆみとこれから』

さくら市スポーツ少年団の誕生とあゆみ

さくら市は旧氏家町と旧喜連川町が合併して平成17年3月28日に誕生し、今年合併10周年を迎えました。

さくら市の誕生とともに、旧氏家町・喜連川町の両体育協会が統合し、さくら市体育協会が発足され、内部に「さくら市スポーツ少年団」が設置されました。

市内のスポーツ少年団の普及と育成を図り、スポーツを通じて少年の心身の健全な育成に寄与することを目的として活動をスタートしました。

両町のスポーツ少年団の創設時期や当時の団員数などについて、残念ながら記録には残っておりませんが、合併直前の年である平成16年度当初は両町合わせて6団体、団員数は111名でした。現在では11団体、36名の指導者のもと141名の団員が、空手・野球・ミニバス・サッカーそれぞれの競技において日々練習に勤しんでいます。

野球では毎年3月に県大会予選会への出場をかけて、塩谷地区内の少年団で予選会を実施して市内外の少年団との交流を図っています。

また、空手道においては全国大会で活躍する選手が多数輩出されています。

更なる活発化を目指して

さくら市においては、人口の微増傾向が続いており、今後も児童・生徒の増加が想定されます。今後ますますスポーツ少年団の新規登録・加入・活動の活発化が見込まれており、将来的に市内独自の交流大会や交歓会などの開催も目指して行きたいと考えています。

更に多目的運動場（仮称）の整備事業が平成27年9月に完了する見込みで、今後陸上競技の振興にも力を注いでいきたいと考えています。



那須烏山市スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：平成18年6月
(3) 役員数：27名

- (2) 本部長名：平野 宏巳
(4) 単位団数：18団

『那須烏山市スポーツ少年団のあゆみ』

那須烏山市スポーツ少年団は、烏山町と南那須町が合併してから活動が始まりました。

平成24年度は単位団数 20団体 団員数430人で平成26年度は、単位団数が18団体 団員数370人だが、近年団数団員数が減ってきていると思われる。

事業として本市ではスポーツを通し、交流事業を開催しております。また、那珂川町との交流を図るため合同で小学生駅伝大会を行っており、スポーツ少年団の団員数が参加している。

その他には、団体で各施設の清掃も行っており事業の一つとして活動している。



下野市スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：平成18年4月27日 (2) 本部長名：大山 茂
(3) 役員数：24名 (4) 単位団数：48団

『下野市スポーツ少年団のあゆみ』

下野市スポーツ少年団は、平成の大合併による南河内町・石橋町・国分寺町の合併が決定し、3町の合併協議会においてスポーツ少年団を含む公共的団体については統合が望ましいとの決定を受け、平成17年に統合に向けた協議が開始されました。

スポーツ少年団活動をどのような形で新市に受け継いで行けばよいか協議をするため、南河内町スポーツ少年団及び石橋町スポーツ少年団の正副本部長、国分寺町についてはスポーツ少年団組織がないため、同様な活動を行っている国分寺町体育協会少年スポーツ部の部長、それから3町の事務担当者による「スポーツ少年団統合に関する事務打合せ会」を、平成17年6月29日の第1回を皮切りに5回開催し、合併の時期、少年スポーツ指導員の取り扱い、組織体制、指導者協議会の組織化、単位団交付金、本部役員構成、各種大会などの主催事業の取り扱いなどについて協議を重ねてきました。

新市発足後（平成18年1月10日合併）には、名称を「下野市スポーツ少年団設立準備会」と改め2回に及ぶ準備会を開催し、設立準備会正副会長の選出・事業計画案及び収支予算案・設立時期・旧町スポーツ少年団の取扱

い等について最終的な協議をいたしました。設立準備会会長に石橋町の山口本部長、副会長には南河内町の大山本部長を選出いたしました。その後、平成18年3月29日には、南河内町スポーツ少年団及び石橋町スポーツ少年団は、解散総会が行われ解散の運びとなりました。

このような経過を経て、平成18年4月27日に設立総会が開催され、本部長に山口和男氏が就任され「下野市スポーツ少年団」がスタートいたしました。

平成24年度からは、大山茂本部長が就任され、子供たちを基盤としたスポーツの場を提供することにより、正しいスポーツを計画的・継続的に実践し、それによって子供たちを健全に育成することを目標に各種事業を展開し、間もなく設立10周年を迎えようとしています。

主な事業内容は、単位団の指導者を対象にした外部指導者による指導者研修会の開催（年2回）、団員及び指導者の相互交流親睦を図るためのシップス交流大会の開催（年1回）、優良団員の表彰事業、単位団主催大会の補助事業、単位団の活動を支援するための交付金の交付事業などを実施しています。



平成26年度総会



優良団員表彰事業



シップス交流大会（大山本部長挨拶）



シップス交流大会



指導者研修会（講義）



指導者研修会（実技）

上三川町スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和59年4月

(3) 役員数：14名

(2) 本部長名：鶴見 郁

(4) 単位団数：10団

『上三川町スポーツ少年団のあゆみ』

○ 上三川町スポーツ少年団は、昭和59年4月に発足し今年で30年を迎えました。現在は10の単位団が登録しており、団員数は約120名です。各単位団は6年生までの小学生を中心に構成されており、サッカーやミニバスケットボール、卓球やバレーボール、空手など種目も多岐にわたります。上三川町や体育協会の主催する大会などの様々な交流大会にも積極的に参加することで、どんどん実力をつけています。また、放課後や週末の練習を仲間と楽しみながら継続することで、体力や集中力の他にも、仲間や家族を思いやる気遣いも持ち合わせた心優しい子どもたちへと成長しています。



○ 上三川町スポーツ少年団には、毎年の恒例行事がいくつかあります。そのひとつが『上三川町スポーツ少年団野外研修』です。親元を離れ、子どもたちは茨城県銚田市の「とちぎ海浜自然の家」へ1泊2日の研修へ出かけます。いつも一緒に活動している仲間たちに加え、普段は関わることのない他登録団の友達とも一緒に活動します。初めは恥ずかしがってなかなか話すこ

とが出来ない子供たちも、一緒にオリエンテーションをしたり、食事をしたり、海へ出かけたり…。いつの間にかすっかり仲良しになってしまいます。スポーツ少年団ならではのこの研修を終え、元気に帰ってきた子どもたちを見た親御さんたちは「ひとまわりもふたまわりも成長した」と、嬉しそうに話してくれます。



○ 上三川町のスポーツ少年団は、スポーツをするだけではなく、社会活動にも積極的に取り組むという基本理念の基に活動しています。その活動の一つに『奉仕活動』があります。上三川町で毎年12月の第一日曜日に開催されるマラソン大会には、スポーツ少年団の団員たちも大勢参加しています。スポーツ少年団では、このマラソン大会のために大会の1週間前になると、団員・指導者・保護者みんなでマラソンコース上のゴミ拾いをします。今年はなんと100名以上の皆さんが集まってくれました。スポーツだけではなく、このような活動からも子どもたちが学ぶものは大きいはずです。上三川町のスポーツ少年団は、“スポーツや社会活動を通して子どもたちの心も育てること”を目標に日々活動しています。



茂木町スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：昭和46年11月1日 (2) 本部長名：澤村 悦男
(3) 役員数：11名 (4) 単位団数：16団

『茂木町スポーツ少年団のあゆみ』

茂木町のスポーツ少年団は、昭和40年代に組織され、中学校の部活動がスポーツ少年団として活動してきましたが、昭和50年代半ばには、小学校の高学年を中心にした学校部活動型の学童野球、道場活動型の剣道などに移行してきました。

現在は、学童野球、サッカー、バレーボール、ミニバスケットボール、卓球、柔道、剣道、空手道の8競技に16の単位団が登録しています。活動種目は全て単一種目で、団の性格は、学童野球とバレーボールは学校区少年団、サッカー、ミニバスケットボール、卓球、柔道、剣道、空手道は地域少年団にあたります。

茂木町スポーツ少年団の事業としては、学童野球とバレーボールの栃木県スポーツ少年団交流大会などの茂木町予選会を毎年4月から5月にか

けておこなっています。平成26年度の参加チームは、学童野球が3チーム、バレーボールが4チームでした。

スポーツ少年団の指導者は、昭和62年から認定指導員の養成をおこない、現在14名が資格を取得して指導にあたっています。なお、指導者協議会は、平成16年4月に設立して、指導者の相互連携と資質・指導力の向上を図るための諸事業をおこなっています。

今後の課題は、昨今の子どもたちのスポーツ離れや少子化の影響などで、単位団体の団員数の確保が難しくなっていることです。それに対応するには、単位団体の活動の見直しや加入促進のための広報活動など、家庭、学校、地域が連携して事業を推進していかなければならない。



益子町スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：昭和46年11月5日 (2) 本部長名：岡 良一郎
(3) 役員数：6名 (4) 単位団数：20団

『益子町スポーツ少年団のあゆみ』

本団は単位スポーツ少年団相互の親和、協調を図り連絡を密にしてスポーツ少年団が発展向上することを目的として、1971（昭和46）年に益子町スポーツ少年団が発足した。

平成10年に社会教育課を生涯学習課に課名を変更となり、平成24年には、社会体育係をスポーツ振興係に係名を変更となり、現在は生涯学習課スポーツ振興係が事務局になっている。

平成11年に益子西学童野球クラブが第21回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会で優勝。

平成19年4月には町立山本小学校、大羽小学校、小宅小学校が閉校に伴い、町内の小学校が7校から田野小学校、益子小学校、益子西小学校、七井小学校の4校となる。学校単位で活動している団が多いことから、団数が減少した。

現状

スポーツ少年団主催のバレーボール大会を春と秋に、春と夏と新人野球大会を3回、サッカー大会を年1回開催。活動場所については、主に学校の体育館やグラウンド、町内施設が多い。また、スポーツ少年団総会時には、団の活動発表を行っている。

平成20年より「子供たちに夢を」を目的に、第一線での活躍経験のあるアスリートによる少年スポーツ教室を開催。直接、熱心な指導を受けた小中学生は、より興味

を持ち、技術を向上させていくものと期待している。

今後の抱負

団員不足と共に指導者不足の問題を抱える団も少なくない。広報誌などにより広く団員募集を図りたい。指導するには、専門知識が必要なため体育協会専門部の協力を得られるように働きかけたい。

また、認定指導員も平成27年度から各団に2名必要になるので、2名以上確保できるよう研修の参加者募集を図りたい。



市貝町スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：昭和47年1月1日 (2) 本部長名：大貫 宏衛
 (3) 役員数：5名 (4) 単位団数：5団

『市貝町スポーツ少年団のあゆみ』

昭和47年1月に、市貝町スポーツ少年団が誕生した。

初代本部長として、桜井広一氏が就任し、市貝町スポーツ少年団の充実発展を期してスタートした。以後、岩崎正三郎氏が昭和51年から昭和63年まで12年間、國井義慧氏が平成1年から平成5年までの4年間、関 榮一氏が平成6年から平成14年までの8年間、墨野倉節夫氏が平成15年～平成18年までの4年

間を歴任し、スポーツ少年団の発展、少年スポーツの振興に尽力され、現在に至る。

少年団発足時より、長年にわたり、町内のスポーツ少年団球技大会（サッカー・バレーボール）を年2回開催しチーム力の向上と団員の交流に努めている。

また、平成21年3月には、第6回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会に赤羽スポーツ少年団が初出場を果たした。



《町スポーツ少年団
球技大会》

『広報いちかい』平成21年3月号より

◎平成26年度登録団体名及び登録者数

団 名	団員数	男 子	女 子	活 動 競 技
市貝スポーツ少年団	16名	—	16名	バレーボール
赤羽スポーツ少年団	44名	34名	10名	サッカー・ バレーボール
小貝バレーボールスポーツ少年団	11名	—	11名	バレーボール
市貝ウイングススポーツ少年団	10名	8名	2名	野 球
市貝町柔道クラブスポーツ少年団	17名	9名	8名	柔 道

芳賀町スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和40年2月

(2) 本部長名：豊田 征夫

(3) 役員数：4名

(4) 単位団数：7団

『芳賀町スポーツ少年団のあゆみ』

芳賀町スポーツ少年団は、東京オリンピックを控えた昭和40年2月に発足しました。町内中学生1~2年生を団員として、「スポーツによる青少年育成」という日本スポーツ少年団の理念則って町内に20の団が設置されました。

現在は、小学生が中心となり、学童野球3団体、バレーボール4団体の計7単位団で活動しております。毎年4月には、選手同士の交流のために町内スポーツ少年団交流大会を開催しています。

少年スポーツ活動の振興を図るため、平成5年より少年スポーツ指導員を設置しました。現在は39名が指導員として子どもたちへの指導育成を行っております。指導員への取り組みとして、講習会を開催し、指導員の資質向上に励んでおります。

指導者高齢化や少子化の影響による団員や指導者の減少、活動時間が夜になることなどが課題となっています。

子どもたちを取り巻く環境が変化していく中、将来性豊かな子どもたちが、生涯にわたってスポーツを行いながら、健全に成長できるような団となるよう取り組んでいきたいです。



町スポーツ指導者講習会



町スポーツ少年団バレーボール交流大会

壬生町スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：平成2年4月1日 (2) 本部長名：落合 範子
(3) 役員数：4名 (4) 単位団数：12団

『壬生町スポーツ少年団のあゆみ』

歴代本部長

初代 榎本 和平
2代 篠原 義明
3代 落合 範子

種目別団数

野球：6団体
ミニバスケットボール：4団体
バレー：1団体
空手：1団体

現状と活動

平成2年に壬生町スポーツ少年団が、皆様のご協力もと発足しました。当時は、会員数は少数ではありましたが、スポーツをすることで子供たちの

青少年健全育成と体力向上を大きな目的としてスタートされました。

過去には野球で県大会優勝やミニバスケットボールで上位になるなど多くの大会で輝かしい成績を残しており、卒業生の中には社会人になっても活躍し、今もそれぞれの立場で活動しています。

現在は少子化が進む中、12団体・179名で活動を行っており、普段の練習においても勝つことだけではなく、スポーツの楽しさ、つらさ、悔しさ喜びを味わい成長していくことを学んでいます。



野木町スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：昭和49年4月1日 (2) 本部長名：中野 晴永
(3) 役員数：3名 (4) 単位団数：6団

『野木町スポーツ少年団のあゆみ』

野木町スポーツ少年団は昭和49年より登録し、活動を始めました。

発足当初は中学生が中心な団体で、陸上・ソフトボール・剣道・柔道・卓球・庭球・バレー・サッカー・野球の9種目が登録されており、いわば中学校の部活動の延長のような形でスタートしました。当時は中学校の体育館・武道館を使い、夜間は小学生の指導をするなど、活動範囲は次第に広がっていきました。

昭和52年に町の体育センターと武道館が開館し、夜間の練習場所はこちらに移動しましたが、小学生から中学生になった子どもたちは自転車で通い続け、自分の練習とともに小学生の指導もしてくれていました。

このような指導体制が功を奏してか、中学生たちの県内での活躍はめざましく、特に卓球は関東・全国大会に10年以上も連続出場し、日本一にも輝きました。また、これに感化されるように剣道を始め、他のスポーツも関東・全国と出場し、数々の優

秀な成績を収めました。

現在の登録団は、ミニバスケット(3団)・剣道・柔道・空手道の6団体です。小学生を中心に各種交流大会などに参加し活動を行っています。

近年では野木町の柔道の少年団体にかつて所属していた選手が国際大会で活躍しており、その指導者が現在も単位団で教えていることもあり、今後スポーツ少年団から広く活躍する選手が育つことが期待されます。

一方で、少子化やインターネットの発達などによる娯楽・情報の多様化、クラブチームの入団が以前より身近になったことなど、様々な環境の変化で団員が減少し、登録が難しくなってきた単位団も見られます。

厳しい現状ではありますが、今後も少年期にスポーツの遊びや周囲の人と交流する大切さを養う場を提供する団体として、子どもたちが楽しく健やかに成長できるよう広く活動を展開していきます。



塩谷町スポーツ少年団

(1) 発足年月日：昭和47年5月

(2) 本部長名：松井 洋三

(3) 役員数：20名

(4) 単位団数：6団

『塩谷町スポーツ少年団のあゆみ』

塩谷町スポーツ少年団は昭和47年に発足し、過去には主催事業としてのソフトボール大会や少年サッカー大会、共催事業として学童野球大会や相撲大会、バスケットボール大会などを開催して活発に活動しておりました。

当時の大会は学校単位でスポーツ少年団活動を行っていましたが、生徒数も減少したことから小学校が7校から3校に減ってしまい、現在は、各学校単位でのチーム編成は難しい状況にあります。

現在、学童野球1チーム、学童ソフトボ

ール1チーム、少年サッカー1チームのみとなり、町内での大会は開催できなくなっておりますが、地区・県大会等には出場しております。ただし、相撲とバスケットボールにおいては町大会を開催しております。

規模が小さくなっても本町の少年育成の為、これからもできる限り活動を支援できるよう頑張っていきたいと思っております。



高根沢町スポーツ少年団

- (1) 発足年月日：昭和47年4月1日 (2) 本部長名：鈴木 保夫
(3) 役員数：13名 (4) 単位団数：9団

『高根沢町スポーツ少年団のあゆみ』

栃木県スポーツ少年団創設50周年誠におめでとうございます。

現在、高根沢町スポーツ少年団は、9団体の登録により活動しております。内訳をみますと、軟式野球4団、ソフトボール1団、ミニバスケットボール2団、柔道1団、空手道1団という内容です。

学童野球に関しましては、過去よりチーム数は減少いたしました。町内の全てのチームが登録しており、近年においは、平成15年に阿久津スポーツ少年団が全国交流大会ベスト4、平成16年に西スポーツ少年団が県交流大会準優勝、平成24年に阿久津スポーツ少年団が県交流大会準優勝と活躍をしております。

また、高根沢柔道スポーツ少年団も個人戦において、県交流大会に優勝者を多数輩出しております。

大会での成績のみならず、近年スポーツ少年団登録団体及び団員数が減少している中、本町スポーツ少年団も例外ではありませんが、今年度、ミニバスケットボールにおいて、今まで競技人口が無かった、男子チームが結成され登録となりましたことは、非常に喜ばしいことでありました。

今後も、本町スポーツ少年団におきましては、微力ではありますがスポーツを通して青少年の「こころ」と「からだ」の健全育成を目的とし、未来の日本を担う子どもたちの育成に携わる指導者等の資質の向上も図りながら、地域社会へ貢献できるよう活動して参りたいと思います。

結びに、栃木県スポーツ少年団の益々の発展と、県内のスポーツ振興が更に活性化されますことをご祈念申し上げ、本町スポーツ少年団の紹介と致します。



那須町スポーツ少年団

(1) 発足年月日：平成元年 4 月

(2) 本部長名：平橋 誠次

(3) 役員数：5 名

(4) 単位団数：3 団

『那須町スポーツ少年団のあゆみ』

那須町スポーツ少年団は、発足から 26 年が経過し、長い間黒田原スポーツ少年団のみが登録単位団として編成しておりましたが、平成 24 年から那須ジュニアソフトテニスクラブスポーツ少年団が加わり、翌年には那須ミニバスケットボールクラブスポーツ少年団も加わり、現在単位団数 3 団で編成しております。



子ども達は、スポーツ少年団活動を経験することにより、歓びや楽しさを体験すると共に、仲間との連帯や友情を育むことができ、更にはその過程の中で協調性や創造性などを育み人間性豊かな社会人として成長することが期待できるので、今後も進む学校統廃合の動向を注意深く見守りつつ、時代に合ったスポーツ少年団の育成に励む必要があります。



また、那須町は平成 26 年度から学校統廃合も始まり学区編成が見直されるなど、スポーツ少年団を取り巻く環境にも大きな変化がありました。こういったことから今後は特定のスポーツ種目のみの活動を行うのではなく、様々な活動を通して児童どうしの交流が必要になってくると考えられます。



那珂川町スポーツ少年団

(1) 発足年月日：平成18年5月1日

(2) 本部長名：坂本 秀男

(3) 役員数：20名

(4) 単位団数：11団

『那珂川町スポーツ少年団のあゆみ』

平成18年 5月 馬頭町と小川町のスポーツ少年団が合併しスタート
平成20年 7月 日独スポーツ少年団同時交流事業（派遣）1名派遣
平成24年 8月 日独スポーツ少年団同時交流事業（受け入れ）
平成25年 8月 日独スポーツ少年団同時交流事業（派遣）1名派遣
平成26年 4月 指導者協議会設立

那珂川町スポーツ少年団は馬頭町と小川町が合併後の平成18年に活動が始まりました。

内訳としては、単位団11団、剣道・軟式野球・ミニバスケットボール・サッカー・ソフトボール・卓球・空手道の6種目である。

また、平成24年8月には、日独スポーツ少年団同時交流事業の受け入れ先として、ドイツの柔道スポーツ少年団員と団長を受け入れ、平成20年と25年にはそれぞれ1名をドイツ

派遣に送り出す等、国際交流にも力を入れている。

さらに、県内でも数少ないリーダーズクラブ活動を行っている。リーダーにはマラソン大会などの町の事業に協力してもらうほか、県リーダーとして、シニア・リーダースクールへの参加や団員と大人の指導者・保護者の橋渡し役として重要な役割を果たしている。先に述べた、ドイツ交流においても、活躍している。



栃木県スポーツ少年団リーダーズクラブ

- (1) 役員構成：会長 檜山慈、副会長 栗田純香 阿久津茉世 篠原彩
(2) 会員数：24名

『リーダーズクラブのあゆみ』

栃木県スポーツ少年団リーダー会は「栃木県内のスポーツ少年団リーダーに活動の場を与え、相互の連絡調整並びにリーダーの資質向上とスポーツ少年団の発展を図ること」を目的として発足しました。

現在の会員数は24名で、役員は会長1名、副会長3名、以下20名で構成されております。その活動は、県内事業として4月の総会、7・9月の研修会、「栃木県スポーツ少年団交流大会」の企画・運営を行っております。県外事業としては、「全国リーダー連絡会」及び「関東ブロックリーダー研究大会」参加、「茨城県・栃木県リーダー会交流研修会」の実施を行っております。リーダー会の指導は、「指導育成専門部」が主に行っております。専門部にはリーダー会のOBも多数在籍し、リーダー時代の経験を後輩たちに伝えながら指導を行っております。

スポーツ少年団には、年長の団員（中学生や高校・大学生）をリーダーとして育成し、将来の指導者へと導くシステムがあります。そのリーダーは育成過程の中で、「Jr.リーダー」や「Sr.リーダー」の資格を取得や、種々の活動を通じ様々な経験を積んで行きます。

栃木県スポーツ少年団リーダー会では県内各地のリーダーに、県内外の同年代や先輩・後輩リーダー達との交流を通じ、単位団では出来ない行事の提供をしております。

まだまだリーダー及びリーダー会の認

知は低く、指導者の中にもリーダーやリーダー会の存在を知らない方がいます。リーダーは無限の可能性を秘めた、将来の指導者への「金の卵」と考えております。今後は様々な活動を通じてリーダーの存在をアピールし、県内各地より多くのリーダーの参加を頂き、より活発な活動を行って行きたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。



栃木県スポーツ少年団指導者協議会

(1) 構成役員：会長 小川俊介 副会長 飯田昌弘 上吉原浩 稲富照子
運営委員 14名

(2) 委員総数：28名

『50周年を迎えて』

栃木県スポーツ少年団は、スポーツ活動を通じて多くの青少年たちにその歓びと、健全な心と身体を育てることを願って創設され、今年で50周年を迎えることとなりました。

スポーツ少年団の理念である「一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを提供する」・「スポーツを通して“からだ”と“こころ”の成長を育む」・「スポーツによる国際交流」と新たにこれからのスポーツ少年団を目指すため「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」を旨に団員の指導にあたってこられた数多くの指導者の皆さまに支えられ、ここにめでたく50周年を迎えることができました。

ここに至るまでの間には、スポーツ少年団の発展させるための数多くの制度改革や組織の改革、さらに、平成の大合併などの時代の流れの中でスポーツ少年団の指導者や関係者に助けられながら活動を推進してまいりました。

創設当初からみますと、指導者に関わる大きな事件として1964年「スポーツ少年団の理念」全面改定（ほぼ現在の理念）、1964年「スポーツテスト講習会」の開催、1966年「スポーツ少年団登録規定」施行・1977年「指導員認定講習会（A/B/Cコース）開催」・1978年「日独スポーツ少年団同時交

流協定書」締結・1986年「団・団員・指導者の登録の一本化」・1989年スポーツ少年団登録有料化などの大きな動きの中で1993年（平成5年）にスポーツ少年団の創設期・発展期で30年の節目を迎えさらなる発展を祈願したところであります。

この後、スポーツ少年団の充実期を迎え、栃木県スポーツ少年団では、県スポーツ少年団事業等の企画運営に当たる組織として1999年「栃木県スポーツ少年団専門部」を設置、さらにスポーツ少年団の発展と後押しとなった法律として、2011年「スポーツ基本法」の制定や、指導者の地位と資質の向上を目指しつつ、スポーツ少年団活動の推進を図るための、2014年「単位スポーツ少年団の有資格者の複数化」、2008年日体協公認資格取得者への認定員資格付与に伴う資格移行措置、中学校体育連盟や高校体育連盟・日本オリンピック委員会の指導者による練習中選手へのセクシャルハラスメントや体罰・暴言等の問題発覚により、2013年「スポーツ界における暴力根絶宣言」がなされた。県内の各市町のスポーツ少年団の状況把握と指導者へのスポーツ少年団啓発活動として、県独自の事業を2005年「タウンミーティング」の実施、全国に先駆けて、認定員の資質の向上を図るた

め、2005 年「認定員の再研修義務化」決定、など栃木県スポーツ少年団では、本部事業と協力しながら現在にいたっているところであります。この中のいくつかの施策実施に当たっては、平成 16 年当時、栃木県スポーツ少年団指導協会会長であった故熊倉敬次氏が先駆けて推進された諸施策であり、ご尽力の賜物であります。

残念なことに平成17年の合併以降、各市町のスポーツ少年団の統廃合の影響で団、団員の登録数が少なくなっているところが気になっているところではありますが、「第8次五カ年計画」で謳われている「地域・学校との連携」を推進するとともに各市町への指導者協議会からの啓発活動を進めることにより、将来に向かって、すべての団員、指導者及び母集団が納得できるスポーツ少年団活動を推進していくとともに、栃木県スポーツ少年団がますます充実発展するよう祈念いたします。



栃木県スポーツ少年団指導者研修大会



関東ブロック指導者研究協議会

栃木県スポーツ少年団創設 50 周年記念記録採用タイトル

「かがやき」

以下に、採用タイトル応募者を記します。

小池善子様（清原東クラブ女子スポーツ少年団）

坂田和男様（睦フロンティアスポーツ少年団）

菅井勇様（西那須野剣道スポーツ少年団）

刈屋太郎様（刈屋道場スポーツ少年団）

須藤健次様（城北クラブスポーツ少年団）

岡本七海様（野木町空手道スポーツ少年団）